

実習マニュアル

介護福祉士科

1. 実習の意義

実習は教科書や講義では得られない、実際の現場を見学し、体験することに特別の意義がある。

実習期間中に様々な困難を抱える利用者との出会い、実習が単なるロールプレイ的感覚ではなく、「生活の場」であることを身をもって体験できる機会である。「やり直しの効かない、二人としない、かけがえのない一人の命、人生」に関わるだけに、実習に対する姿勢・心構えにも真剣さが求められる。その一方で日頃の学習の成果は勿論のこと、日常生活の姿勢がそのまま実習中に反映されることも実習ならではのことで、真剣に自分の人生を見つめ直し、価値観を問い直すよい期間であると考えよう。

2. 実習の目標

講義・演習・学校内実習で学んだ知識に基づいて利用者との人間的な関わりを深め、利用者が求めている介護の需要に関する理解力・判断力を養う。日常生活援助に関する介護技術能力を深めると同時に各種の住設備機器や福祉用具の知識と活用能力を養う。実習指導者の指導を受けながら介護計画の立て方や記録の仕方について学び、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。施設介護実習では、施設の運営や在宅介護との連携並びに通所サービスにも参加し、要介護老人・障害者等に対するサービス提供全般における介護の職務の理解を深める。訪問介護実習では実際に家庭を訪問して居宅における介護サービスについて理解を深める。

3. 実習の内容

I. 実習施設の範囲（実習Ⅰ）

- ① 実習施設・事業所等に係る基準（厚生労働省）における「実習施設・事業所等（Ⅰ）」の区分は、個々の生活リズムや個性を理解するという観点からさまざまな生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践・生活支援技術の確認・多種職協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする実習教育課程。
- ② 特定の施設・事業所等の種別に片寄ることがないように、高齢者関係施設・事業所等、障害者関係施設・事業所等及び児童関係施設・事業所等で多様な経験・学習を行う。
- ③ 実習教育活動の進行中において実習担当教員は、個々の学生の実習課題を把握したうえで、実習目標の達成状況を確認し、目標達成のための動機づけを行なうとともに、目標達成のための具体的な方法について指導する。また、施設との連携を密にし、より効果的な実習が展開できるよう調整。

II. 実習施設の範囲（実習Ⅱ）

- ① 実習施設・事業所等に係る基準（厚生労働省）における「実習施設・事業所等（Ⅱ）」の区分は、ひとつの施設・事業所等において一定期間（介護実習に係る時間数の3分の1以上）以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点をおいている。これらは、「尊厳を支えるケア」や「個別ケア」における介護実践の根拠を理解するため、「介護過程」のすべてを実践する実習教育課程としている。
- ② その実習教育方法は、「個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正」といった介護過程の思考プロセスを、実際の利用者1人を受け持つことにより実践することである。その際には、①実習時における学生のかかわりと利用者のインシデント場面を直感的に感じ取り、かかわりの必要性について意味づけし対象利用者を決定する。その利用者の参加と協働の基に、②個々の利用者の生活史から本人の生活価値観、本人らしさなどや家族歴、現在の生活における「参加」や「活動」や生活リズム、生活に影響を与えている「心身機能」、本人の生きる力や将来に向かっての生活設計・希望など情報収集し利用者の全体像を理解する。③情報を分析・解釈し生活課題の特定を行なう（アセスメント）。④介護計画の立案⑤計画に基づく行動計画の実践。⑥評価の一連のプロセスを、対象利用者の生活像から実習期間内に展開する。
- ③ 実習教育活動の進行中において過程評価を行い目指した方向に学習過程が進んでいることを確認することが必要である。この「介護過程」の展開（上記の①～⑥の段階）ごとに教育・実習指導者・学生によるスーパービジョンを取り入れ学生の実習学習過程にフィードバックする。そのため、教員による個々の学生の「介護過程実習授業計画」を作成し、学生もまた「実習行動計画」を作成する。これらの計画を基に実習指導者による「実習教育プログラム」の作成が、一定の期限がある実習期間内に介護過程の6段階を実践・評価していくプロセスにとって重要な要素になる。

III. 実習期間

- ① 実習Ⅰ 在宅サービス（1年次）
1月（日数：5日間）
- ② 実習Ⅰ 施設（1年次）
2月（日数：13日間）
- ③ 実習Ⅰ 訪問（1年次）
3月（日数：1～5日間）
- ④ 実習Ⅰ 施設（2年次）
5月～6月（日数：22日間）
- ⑤ 実習Ⅱ 施設（2年次）
8月～9月（日数：22～25日間）